

テーマ	高校「音楽Ⅰ」におけるミュージカル実習(Les Misérables)
発表内容	高校生によるミュージカルの取り組みと授業実践の紹介
発表者	芸術科（音楽）教諭 水上 陽一

発表概要

1. はじめに・コロナ禍以降の音楽授業

コロナ禍では音楽授業内容をどう設定するかが問題であった。その中で今だからこそ出来ること、これを念頭に置いて試行を重ね授業を組み立ててきた。1人1台パソコン所持、Google Classroomの開設等が導入され、コロナ以降、現在は音楽授業方法も一転した。



2. ミュージカル実習の取り組みへ

ミュージカル曲は以前より授業で扱うこともあったが、本校の週1時間の音楽授業では1曲を仕上げるだけで時間を費やした。ミュージカルならではの、やはり複数曲を扱い、ストーリーの流れや歌唱、演技などに取り組み、実演発表をさせることが出来ればと以前より考えていた。この生徒所持パソコンを旨く活用すれば授業時間外や家庭でも課題に取り組み、時間的な問題も解決し、実施可能ではないかと予想した。2022年より高校1年生の1学期を用いてこの取り組みを始めた。

この年の学習指導要領及び教科書全面改訂に伴い、「音楽Ⅰ」教科書は「レミゼラブル」が充実したものともなった。



3. ミュージカル実習の制作過程

2022年は未だ人前での発表が難しく、歌唱動画提出とそれを合成したミュージカル動画の制作を行った。2023年はコロナも五類となり、従来の形態での授業を再開すると共に、鑑賞し合う発表会へ授業を持って行くことが出来た。

教科書には「夢やぶれて」「民衆の歌」の2曲が掲載されている。「民衆の歌」は音楽Ⅰ選択生徒全員に取り組みせ、「夢やぶれて」は女声歌唱曲なので、他に女声男声用の歌を数曲加え、各自その中から1曲、計2曲に取り組みさせた。前年同様に歌唱動画提出及びミュージカル動画に仕上げ、この年度は何れか1曲を最終授業でグループを作り実演発表を行うまで持っていくことが出来た。

Google Classroomには生徒が授業外や自宅などでも自主的に取り組めるよう、全ての歌のピアノ伴奏と歌唱を収録した見本音源、ピアノ伴奏に歌の楽譜を貼り付けた伴奏音源を準備制作して取り組みさせた。

4. ミュージカル実習の取り組み成果

パソコン導入やGoogle Classroom設定のおかげで少ない授業時間の問題も解決し、実施が可能となった。2023年は1学期最後に上演発表を行うことが出来た。この3年余り音楽は規制の中であったが、そこからアイデアを巡らせこの実施に持って行くことが出来た。

5. 成績評価について

ここでは省略

6. まとめ

新しい取り組みは試行状態であってもまず実行という考えで授業を行ってきた。まだ完全な状態ではなく、年々工夫が必要とも思う。ミュージカルに対する高校生の生き生きとした様子、発表に取り組む楽しげな様子を見ると、授業の充実感を得ること、音楽の可能性の多さを感じ取ることが出来た。今後さらにアイデアを加え、良い物に出来ればと願っている。

質疑応答

Q. ミュージカルリモート動画の編集にどの位の時間を要するか。

A. コロナ以降これに慣れ、約1週間で仕上げられるようになった。

Q. 使用ソフトはどんなものを、動画にエコーがかかっているが。

A. 原始的なアプリを使用、生徒に上手く聴かせることもあり加工はしている。

Q. 授業だけで終わるより全校生徒等に発表する場があって良いのではないか。

A. 芸術を重要視しない本校ではかなり難しいものがある。

Q. 「民衆の歌」など英語による歌詞も良いので取り組んでみては。

A. 今後、取り組むことが出来たらと思う。

Q. コロナ禍の規制もあったがその後、生徒の音楽に対する興味は戻ったか。

A. 生徒はどんな事にも興味を示したので特に問題はなかった。

Q. コロナ禍において生徒のモチベーションをどうやって作ったか。

A. コロナの規制の中での音楽授業に生徒は非常に協力的であったので特に問題はなかった。